



NEWS 出発式 能登半島地震・姫路赤十字病院救護班を派遣

令和6年1月1日に石川県能登地方を中心に発生した地震災害を受け、当院より1月13日~17日にかけて、救護班1班(医師1名、看護師3名、主事(事務調整員)2名、薬剤師1名)が石川県の輪島市に向け出発しました。

出発式では、岡田院長より「多数の人が救援を待っている。災害関連死や感染症が心配だ。救援活動、診療活動で勇気を与えて欲しい。」と激励の言葉が贈られ、職員に見送られながら救護任務に出発しました。

当院の救護班は輪島市内の各避難所の状況把握を中心に被災者の健康状態を把握し、安全な避難生活が送れるよう各避難所のサポートを行う予定です。今後、救護班2班を1月25日~29日に派遣し、継続して支援してまいります。



患者さんのご紹介はぜひFAX紹介をご利用ください

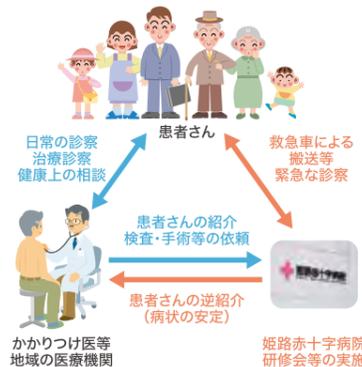
当院では、地域の先生方と緊密な連携と役割分担を図りつつ、より良い医療を提供していくことで、地域医療の充実を目指しています。

紹介状をお持ちでない患者さんが当院を受診された際は、まず、かかりつけ医を受診していただくようお願いしていますので先生方のご支援を賜りますようお願いいたします。

また、紹介状をお持ちでも直接来院された場合、来院された日に受診出来なかったり、待ち時間が長くなったりとご迷惑をおかけすることがありますので、是非FAX紹介をご利用くださいますようお願い申し上げます。

【患者さんにとってのメリットは?】

- 症状に応じた専門医の診察を受けることができます
- 受診日時が決定するので、スケジュール調整ができます
- 初診申込書の記載が必要ないので手続きがスムーズにできます
- 初診時選定療養費 医科7,700円(税込)、歯科5,500円(税込)が徴収されません
- 外来での待ち時間が最小限となります



FAX紹介受付時間 平日 8時30分~19時まで 土曜日 8時30分~12時まで

診察日 原則 1週間以内 *但し、検査・診療科・診療内容により及び希望日が集中する場合がございますのでご了承ください。

問い合わせ先 地域医療連携課 TEL:079(299)5514(直通) FAX:079(299)5519(直通)

がん相談支援センター

当院では、がんで悩みの患者さんやご家族の方が安心してご相談いただける窓口として「がん相談支援センター」を設置しております。当院の患者さんやご家族はもちろん、地域の方、当院かかりつけでない方もご利用いただけます。

相談予約 あらかじめ電話でのご予約をお願いいたします

病院代表: 079-294-2251
直 通: 079-299-0037

受付時間 平日 8:30~17:00 相談時間 1回60分程度



また、当院2Fエントランスホールの相談支援センターブースでも相談・予約を承っております。

姫路赤十字病院だより

Vol.43

発行日 令和6年1月

発行責任者 姫路赤十字病院 院長 長岡田 裕之
編集責任者 副院長 石川 慎一

〒670-8540 姫路市下手野1-12-1
電話 079(294)2251代
URL: <https://himeji.jrc.or.jp/>

姫路赤十字病院だより

Japanese Red Cross Society Himeji Hospital NEWSLETTER

Vol. 43

January 2024.1

contents

- 年頭のご挨拶
- 膀胱がんに対する光線力学診断経尿道的膀胱腫瘍切除術(PDD-TURBT)を開始しました
- 産婦人科外来に超音波画像診断装置「Voluson Expert 22」を導入しました
- 診療科の紹介 小児科
- 診療科の紹介 病理診断科
- Cooperation Message 地域医療連携室
- チーム医療紹介 感染制御チーム(ICT)
- 入院病室をリニューアル中です
- 「JR列車事故総合訓練」に参加
- 兵庫県内で「近畿DMATブロック訓練」を開催
- 第53回 がんについてもっと知ろう!市民講座を開催します
- 看護部研修予定一覧
- 能登半島地震・姫路赤十字病院救護班を派遣
- FAX紹介のご案内
- がん相談支援センターのご案内



年頭のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。2024年（令和6年）が幕を開けました。

3年続いたコロナ禍も収まってきて昨年よりも規制緩和された年末年始で長閑なお正月となるはずでしたが、元旦早々能登半島地震、それに続く羽田空港航空機事故と大変なことが起こりました。亡くなった方も多数いらっしゃる心からお悔やみを申し上げます。また多数の被災された方々にお見舞い申し上げます。本原稿を執筆時点ではまだ余震も続いており被害の全容も明らかになっておりせん。日赤のDMAT、救護班も中部、近畿地方を中心に全国規模で動員されることになり、当院は1月13日～17日まで、救護班1班を被災地へ派遣しました。今後も継続して被災地への支援活動を続けていきます。

新たな治療への取り組み

当院は高度急性期・急性期疾患を扱う病院としてがん医療、救急医療、小児・周産期医療を中心にあらゆる分野で質の高い医療を実践すべく務めていきます。

昨年は膵や消化管などに発生する神経内分泌腫瘍（NEN: Neuroendocrine neoplasm）を外科、内科、放射線科で連携をとって診療する目的でのNENセンター、腫瘍性あるいは非腫瘍性疾患に対する各診療科特有の低侵襲治療を集約してより機能的、効率的な医療提供が行えるように低侵襲センターを立ち上げました。

その中で新たな治療として全国的にも先進的なNENに対するペプチド受容体核医学内容療法、頭頸部癌に対する光免疫療法を開始いたしました。また、泌尿器科領域では新たに光線力学診断経尿道的膀胱腫瘍切除術を開始し、再発率の低下が期待されます。

医療DX（デジタルトランスフォーメーション）に向けて

医療の世界においてもDXが叫ばれています。1月に電子カルテのシステム更新を行いました。併せて診療が円滑に実施されるためのスマートフォンを用いたアプリケーション「コンシェルジュ」も導入しました。再来患者さんの動線短縮化、診察室の前で待機しなくても院内どこにいても診察待ち状況がわかる、診察後の会計もクレジットカードを用いて自宅でもできる自動会計システムも導入、会計待ち時間の減少に効果を発揮しています。現在、登録者は3,500名であり継続的に増加してきております。

医療におけるDXとはICT（通信技術を活用したコミュニケーション）、AI、RPA（人が日常行う業務を人が実行するのと同じかたちで自動化すること）、ビッグデータ、クラウドなどのデジタル技術を活用することで、医療の効率や質を変革し向上させることです。いきなりのDXは難しいですが、それを目指すということで当院の多職種の職員から構成されるDX推進室を2023年4月に立ち上げました。院内における課題を抽出して、解決に繋がる方策やツールの活用を

模索しながらも進めています。地域医療支援病院としての役割を果たすための最近のICT導入としては転院調整業務における「CAREBOOK」を本格導入しました。当院と連携施設がオンラインで結ばれ複数の後方病院に一括打診、その後のチャット連絡により転院先を調整します。従来の電話、FAXによる連絡における煩雑、非効率、無駄が省けます。連携施設への登録も簡便に行うことができます。現在30施設に登録していただいています。これからご登録をお考えの御施設がございましたらぜひ御一報お願いいたします。上記は後方連携のシステムですが、逆に当院へご紹介していただく際のweb予約システム「refery」を導入いたしました。まずは限定された診療科からのスタートですが、今後対応診療科を広げていくつもりです。

2024年を迎えて

2024年1月15日からは救急患者電話相談窓口「#7119」が稼働開始いたします。元々神戸市と芦屋市で行われていたシステムに姫路市も参入することになります。いくつもの課題を抱えてのスタートですが上手く運用されることを期待いたします。

2024年問題である働き方改革が4月から施行されます。特に医師の働き方改革は大きな課題です。解決のためにはタスクシフト、ICT導入などを積極的に取り入れていく必要があります。そして6月からは診療報酬改定が行われますが、6年に一度の医療・介護・障害福祉サービスのトリプル改定となります。2024年度の改定では医療機関同士の連携や、医療と介護の連携などデジタルツールを活用した情報連携が重要なテーマとなっています。

今後さまざまな場面でDXへ向けての活動が必要に迫られています。

当院の事業目標の一つとして「変化に即した組織を追求する」を掲げています。DXも含めて時代の波に乗り遅れないように先取りできるように取り組んでいきたいと考えます。

そして、これからも地域住民に必要な機能を整え、地域医療機関、そして医師会関係の方々との緊密な連携をとり、心のかような安全で良質な医療を実践いたします。

引き続きよろしく御指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



院長 岡田 裕之



より良い膀胱がん治療を広くお届けできるように

膀胱がんに対する光線力学診断経尿道的膀胱腫瘍切除術(PDD-TURBT)を開始しました

姫路赤十字病院では2023年10月に膀胱がんに対する光線力学診断経尿道的膀胱腫瘍切除術(PDD-TURBT)を開始しました。

筋層非浸潤性膀胱がんは、未治療の膀胱がんの約7割を占め、通常、初期治療として経尿道的膀胱腫瘍切除術(以下TURBT)による膀胱温存を目指した治療を行います。しかし、筋層非浸潤性膀胱がんは、TURBT施行後、5年以内に膀胱内に再発することが多く、再発を繰り返すうちに浸潤性のがんに進展し、生命予後が不良となることがあります。

光線力学診断経尿道的膀胱腫瘍切除術(以下PDD-TURBT)は、膀胱腫瘍の診断・治療・再発予防を目的として、アミノレプリン酸製剤(アラグリオ: SBIファーマ株式会社)を用いた光線力学診断(PDD: photodynamic diagnosis)を併用する経尿道的膀胱腫瘍切除術です。

PDD-TURBTは膀胱再発率の低下につながることから、膀胱がん診療ガイドラインにおいても最も高い推奨度(推奨の強さ1・エビデンス確実性A)にて位置づけ

されています。

当院泌尿器科では、より良い膀胱がん治療を広くお届けできるように、安全面に配慮し、チーム医療で治療を行ってまいります。



難しかった検査もより正確に

超音波画像診断装置「Voluson Expert 22」を導入しました

産婦人科外来に、超音波検査用の新機器GEヘルスケア社の「Voluson Expert 22」を導入しました。

従来では抽出の難しかった検査でも更に鮮明な4D画像で、より正確な診断ができるようになりました！

(※当院では計画的に最新機器に更新しております。)



院長補佐(兼)第一産婦人科部長 水谷 靖司



01

小児科

スタッフ紹介

久呉 真章 副院長(兼)第一小児科部長
(昭和58年卒/新生児・小児発達)

五百蔵 智明 院長補佐(兼)第二小児科部長
(平成2年卒/新生児・小児発達)

柄川 剛 新生児科部長
(平成10年卒/新生児)

上村 裕保 第三小児科部長
(平成14年卒/新生児)

中川 卓 第一小児神経科副部長
(平成14年卒/小児神経)

阪田 美穂 第一小児科副部長
(平成15年卒/小児循環器)

神吉 直宙 第二小児科副部長
(平成18年卒/小児腎臓)

黒川 大輔 新生児科副部長
(平成19年卒/新生児)

福嶋 祥代 新生児科副部長
(平成22年卒/新生児)

本郷 裕斗 医師
(平成27年卒/小児神経)

金谷 真吾 医師
(平成29年卒/小児内分泌・代謝)

田中 めぐみ 専攻医
(平成31年卒/小児科一般)

藤谷 健太郎 専攻医
(令和2年卒/小児科一般)

渡邊 侑奈 専攻医
(令和2年卒/小児科一般)

円満堂 日奈子 専攻医
(令和3年卒/小児科一般)

佐藤 郷介 専攻医
(令和3年卒/小児科一般)

清水 聖二郎 専攻医
(令和3年卒/小児科一般)

宋 智勲 専攻医
(令和2年卒/小児科一般)

中原 荘太 専攻医
(令和3年卒/小児科一般)

藤田 智之進 専攻医
(令和3年卒/小児科一般)



当科の診療方針

当科は、ありとあらゆる小児疾患に対応して兵庫県播磨姫路圏域の小児医療の基幹病院としての役割を果たし、地域から信頼される小児科であることを目指しています。

地域の医療機関の先生方へ

姫路市小児科医会の先生方には、姫路市休日夜間急病センターの一次救急診療を担っていただき、心より感謝いたしております。一次救急は急病センター、二次救急は当院と全国のモデルとなるような素晴らしい小児救急医療システムが構築でき、そのおかげで我々は重症児の診療に専念できています。

また正しい新生児蘇生法を広めるため産婦人科の先生方や助産師・看護師さん方を対象に新生児蘇生法講習会(日本周産期・新生児医学会公認)を2010年から計32回開催してきました。毎年Aコース(専門コース)とSコース(スキルアップコース)を開催していますので、たくさんのご参加をお待ちしています。

いつもたくさんの患者さんのご紹介をいただき有難うございます。2023年8月より地域医療機関から小児科医師への当日患者さん紹介用の専用PHSも開設いたしました。これからも地域医療機関からのご紹介はすべて受け入れ、地域に必要とされ続ける小児科でありたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

副院長(兼)第一小児科部長 久呉 真章



1. 阪田 6. 上村 11. 福嶋 16. 神吉 21. 田中
2. 中川 7. 西岡 12. 中原 17. 古好 22. 本郷
3. 久呉 8. 佐藤 13. 黒川 18. 清水
4. 五百蔵 9. 円満堂 14. 藤田 19. 金谷
5. 柄川 10. 宋 15. 渡邊 20. 藤谷

令和4年診療実績

1.小児病棟(1月~12月)

気管支炎・細気管支炎	239例
肺炎	101例
胃腸炎	149例
咽頭・扁桃炎	94例
尿路感染症	78例
川崎病	96例
てんかん	74例
熱性けいれん	113例

診療内容

●外来・救急

紹介患者さんは24時間体制で受け入れ、また姫路市休日・夜間急病センターの後送病院を365日担当しています。

午前中は主に一般外来で、午前の一部と午後は予約制の専門外来(神経、低身長、糖尿病、腎臓、乳児検診、アレルギー、心臓、発達フォローアップ、肥満、シナジス)を行っています。

●入院

・一般小児医療

小児センター(8階西病棟・46床)では年間約2,000名の小児科患者の入院診療を行っています。感染症などの急性疾患だけでなく、慢性疾患や心身症など、ありとあらゆる小児疾患に対応して幅広い診療を行っています。熱性けいれんや川崎病の入院患者数は毎年全国でもトップクラスです。

病棟にはプレイルームがあり保育士もいて、病気の子どもさんができるだけ快適に過ごしていただけるように配慮しています。

・新生児医療

総合周産期母子医療センター NICU(新生児集中治療室・18床)、GCU(回復治療室・24床)で新生児医療を行っています。新生児専用救急車にて24時間・365日体制で小児科医師と看護師が播磨姫路圏域の産科に向いてハイリスク分娩の立合いや病的新生児の搬送も行っています。また産科部門では地域からのハイリスク胎児・母体の母体搬送を多数受け入れていただいております。産科との連携を密にして、児と母体にとっての最善の診療を心掛けています。

年間約700名の低出生体重児や病的新生児を受け入れ、人工換気療法や低酸素性虚血性脳症に対する低体温療法、新生児遷延性肺高血圧症に対する一酸化窒素吸入療法、急性腎不全や先天代謝異常症に対する持続血液濾過透析などの高度医療を行っています。またほとんどすべての小児外科疾患にも対応しています。



小児病棟ではクリスマスや七夕に、入院中の子どもさんやご家族を慰労するイベントも行っています



NICUでの低酸素性虚血性脳症に対する低体温療法

2.周産期母子医療センター
NICU・GCU(1月~12月)

気管支喘息	99例	クループ症候群	15例	超低出生体重児	20例
食物アレルギー	35例	亜急性壊死性リンパ節炎	8例	極低出生体重児	42例
低身長	27例	ネフローゼ症候群	9例	人工換気症例	176例
周産期嘔吐症	24例	腸重積	6例	一酸化窒素吸入療法	13例
Cov-19感染症	219例	敗血症・菌血症	12例	低体温療法	3例
急性リンパ節炎	9例	アレルギー性紫斑病(IgA血管炎)	7例	新生児専用救急車による新生児搬送	262例
アナフィラキシー	10例	特発性血小板減少性紫斑病	6例		
糖尿病	11例	神経性食思不振症	10例		



02

病理診断科

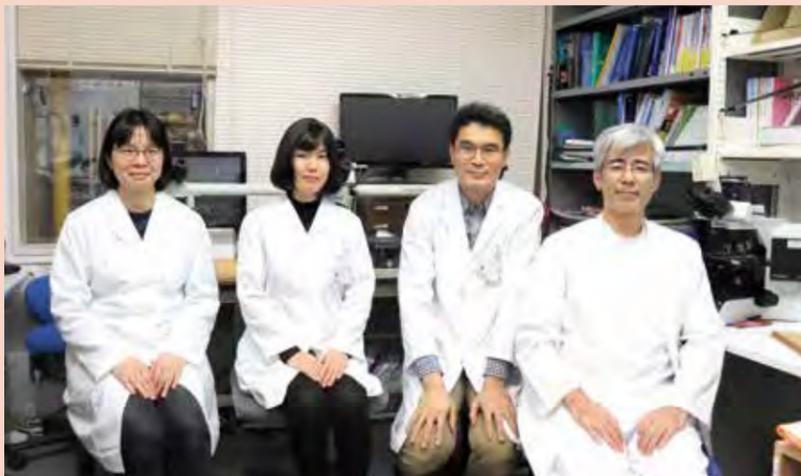
スタッフ紹介

伏見 聡一郎 病理診断科部長職務代理
(平成14年卒/外科病理学)

堀田 真智子 病理診断科副部長
(平成18年卒/外科病理学)

木村 祥佳 医師
(平成28年卒/外科病理学)

和仁 洋治 臨床検査科部長
(平成7年卒/外科病理学)



令和4年診療実績

組織診断 (総数)	12482 件
うち術中迅速診断	366 件
細胞診	7076 件
病理解剖	8 件

当科の診療方針

病理診断科の業務は、手術や生検で採取された検体を組織診断する組織診と、細胞診と、病理解剖の3本からなります。患者さんやそのご家族、地域の医療機関など、外部と接することは少なく、縁の下の力持ちとして、総合病院である姫路赤十字病院の診療を支えています。

当科の診療体制は、伏見（部長職務代理）、堀田（副部長）、木村のスタッフの医師3名で、岡山大学からの非常勤医師の援助も受けて診療しています。ただ、病理診断科の業務は病理医だけで行えるものではなく、骨髓穿刺塗抹標本などを用いた血液病診断を主に行っている臨床検査科（和仁部長）、病理組織標本の作製などを行う検査技術部の臨床検査技師などとの協働によってなされています。近年は、医学研究の進展による疾患概念の変遷のみならず、検査技術の進歩に伴って、がんゲノム診療に代表されるような新しい検査も次々と登場し、検査の精度管理や検体管理も重要になってきています。

病理診断科として、レベル維持・向上を図り、姫路赤十字病院の総合力を高めるべく努力をしています。

地域の医療機関の先生方へ

当科は外来を設けておりません。貴施設での病理組織標本、細胞診標本などがあれば、外来のある一般臨床科あてに患者さんとともにご紹介ください。病理診断科・臨床検査科の医師がその標本を再度鏡検・診断し、当院の臨床医とディスカッションしています。この再評価のプロセスにより、不要な追加検査をなくし、効率的で安全な診療につながっていくものと確信しております。患者さんの負担の少ない安心な医療につながれば幸いです。

実績は少ないものの、他施設の新規診断（術中迅速診断を含む）にも対応しています（病病連携）。必要時には前もってご相談いただきたいと存じます。

病理診断科部長職務代理 伏見 聡一郎



がんゲノム医療とは

「がん」は遺伝子の変異によって起こるので、同じ臓器に発生した「がん」といっても、変異は症例ごとに異なります。次世代シーケンサーという機械にかけ、発症に関連した変異遺伝子を網羅的に調べ、治療や診断に役立てる医療を「がんゲノム医療」といい、その検査を「がん遺伝子パネル検査」と呼んでいます。過去の手術や生検で採取された病理標本を主に検査に用いています。

厚生労働省によって、全国の11病院が、「がんゲノム医療中核拠点病院」に指定されていて、姫路赤十字病院では最も近い中核拠点病院である岡山大学病院と連携し、がんゲノム医療を実施しています。手続きや詳細については、まずは、外来主治医にご相談ください。

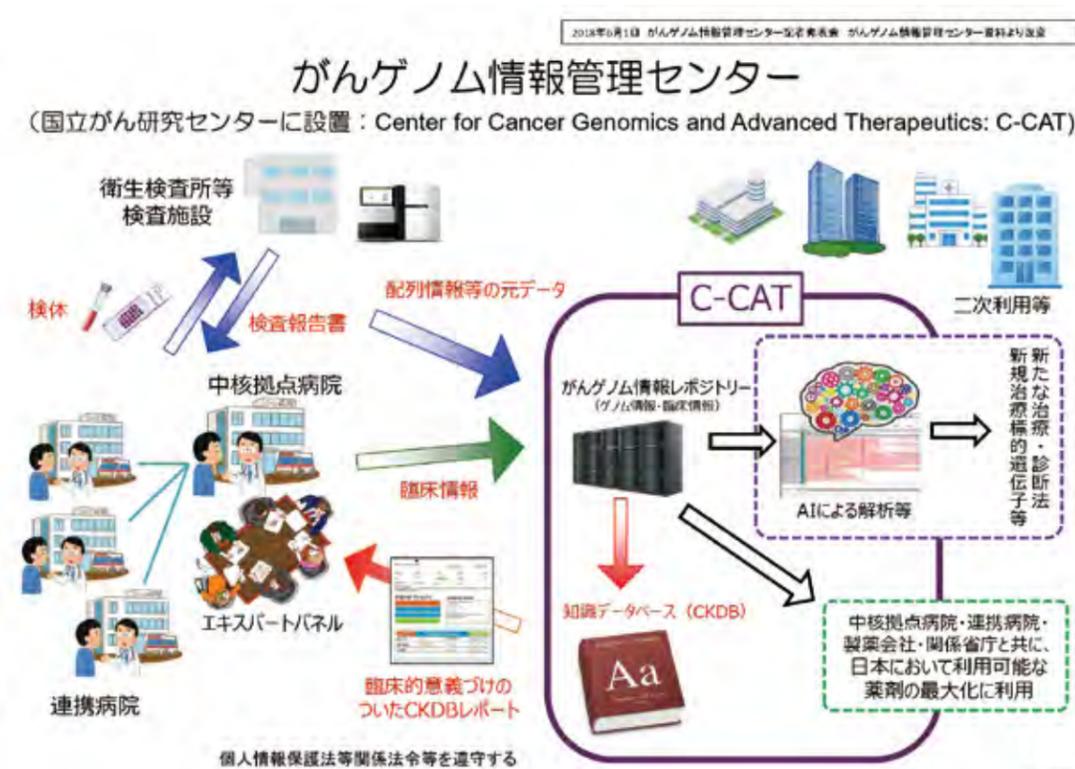


図 がんゲノムの流れ (がんゲノム情報管理センター公開資料より)



Cooperation Message

地域医療連携室

第55回地域連携カンファレンス報告

令和5年12月7日に地域連携カンファレンス～『救急搬送編』吐血患者の搬送から治療まで～を開催いたしました。

第一部は姫路市西消防署から救急第一担当・消防司令補 圓尾 祐樹氏と、当院救急外来看護係長 長久 剛がタイアップし、「プレホスピタルケア（病院前救護）からつながる内視鏡治療」と題して、地域の救急隊および救急救命士の活躍と連携についてご紹介いたしました。この地域の救急件数は、令和4年に32,385件と過去最高を記録し、ここ10年間で約5,000件の増加となっています。（平成元年の救急件数は9,660件）今回の症例では、119の電話を受けて、1分でも早く現場へ、車内収容、病院交渉、現場出発、病院到着まで30分で患者さんを搬送する救急隊、救急救命士のひたむきの様子がわかりました。

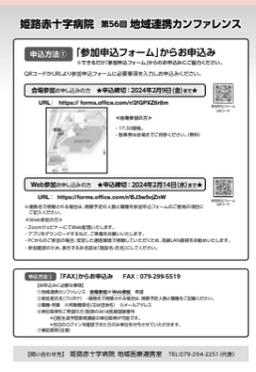
当院では、到着した患者さんに緊急の処置を行うスタッフ、また、動揺される家族への説明を行うスタッフ等、吐血プロトコルを元にバイタルを安定させ内視鏡検査へつなげるチーム医療の様子を説明いたしました。

第二部は当院が得意とする緊急内視鏡について、当院内科医師 山本 洋輔より、当院で緊急内視鏡を検討する場面、①バイタルサイン（意識状態、呼吸数、脈拍数、血圧）の悪化、②Extravasation（血管外漏出像）について、緊急内視鏡治療の取り組み、当院の診療体制、最新機器のそろった内視鏡センターについてお話しさせていただきました。参加者からは「救急現場から院内治療の流れを聞いて勉強になった。自分の家族が倒れたら日赤に搬送されたいと思った。」等うれしい感想をいただきました。第55回地域連携カンファレンスには、連携医療機関、職員約85名の参加があり、盛会に開催することができました。年間4回開催する地域連携カン

ファレンスにご参加いただければ、当院についてご理解いただけると自負しております。これからも情報を発信してまいりますので、多くの連携機関の皆様にご参加いただき、皆様と一緒に安心して暮らせる地域を作りたいと考えています。引き続き、ご支援ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

第56回地域連携カンファレンスは令和6年2月15日（木）に臨床推論ライブを開催予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

地域医療連携室



2月15日（木）18:00～19:10
第56回地域連携カンファレンス
お申し込みはこちら▶



チーム
医療紹介

感染制御チーム(ICT)

感染制御チーム (ICT) は、医師 (ICD)、看護師 (感染管理認定看護師)、薬剤師 (感染制御認定薬剤師)、臨床検査技師 (感染制御認定臨床微生物検査技師) から構成されています。ICTは院内外の感染に対する監視・制御活動や感染防止対策にかかるマニュアルの作成、研修会等を実施しています。



ICT活動の様子

また、当院は感染対策向上加算1として、連携する医療機関や姫路市医師会、行政機関とも連携してカンファレンスを4回/年開催しています。各医療機関の感染対策状況（面会、個人防護具、医療関連サーベイランス状況など）や、手指衛生への取り組みや成果について共有、検討しています。2022年から連携する医療機関での活用およびAMR対策に関するベンチマークの構築を目的とした感染対策連携共通プラットフォーム (J-SIPHE) に参加しました。今後も登録されている全国的なデータを活用した活動を行っていきたく考えています。他にもICTは、連携する医療機関を訪問して助言する等の地域への感染対策の推進活動にも取り組んでいます。



他施設の訪問の様子

院内感染予防対策担当者 八瀬 和佳恵



療養環境の改善のため

入院病室をリニューアル中です！

2023年11月より、経年劣化による療養環境の改善目的で、病室改修を開始しました。収納棚等の備品だけでなく、クロス貼替、空調更新を行い、照明も温かみのある仕様にしております。患者さんが快適に入院療養できるように、改善をすすめております。





協力体制の大切さを改めて実感

「JR列車事故総合訓練」に参加

12月1日(金) JR網干車両区に於いて「JR列車事故総合訓練」が実施され、当院から救護班と臨床研修医が参加しました。

JRでは、平成17年4月に発生した福知山線車両脱線事故を教訓に安全対策の向上を目指し毎年実施されており、今年度は、JR山陽本線における車両事故を想定しての訓練として行われました。

JR職員はもとより、消防、警察、医療、それぞれが連携し、負傷者の迅速な救出、安全確保と誘導、負傷者の振り分けと処置、病院への搬送と一連の流れを本番さながらに実施しました。

一度に多くの負傷者が発生する集団災害に備え、各機関の協力体制の大切さを改めて実感する訓練となりました。



参加救護要員のスキルアップに繋がる

兵庫県内で「近畿DMATブロック訓練」を開催

11月11日(土)「近畿DMATブロック訓練」が兵庫県内で実施され、当院の救護班と兵庫DMAT隊員それぞれが指定された会場で活動を展開しました。

訓練想定は、県内の大雨による河川氾濫によって神戸医療圏、阪神南医療圏の東西に位置する病院等への支援を展開し、当院の救護班は「コムスタ神戸」の避難所アセスメント、兵庫DMAT隊員は、西宮市内瓦林公園センターで西宮敬愛会病院への支援を図上訓練で参加しました。

刻々と変わる情報をいかに早く正確に災害活動拠点本部に伝えるかを、衛星電話や災害アプリ等を使用し、情報ツールの進化に合わせた災害訓練が行われ、参加救護要員のスキルアップに繋がる訓練となりました。



もっと身近に「がん」を知ってもらうため

第53回「がんについてもっと知ろう!」市民講座を開催します

日本の三大疾病と言われている「がん」。

もっと身近に「がん」を知ってもらいたい・・・と始まった講座です。

毎回テーマを決め、様々な視点から、地域の住民の皆様を対象に、がんについての講座を開催しています。第53回となる今回のテーマは『がんと遺伝の関係～わたしががんは遺伝しますか?家族のがんは遺伝ですか?～』です。

「アクリエひめじ」で、清元秀泰姫路市長をお招きし、東京医科歯科大学名誉教授の三木義男先生、近畿大学大学院総合理工学研究科遺伝カウンセラー養成課程客員教授の田村和朗先生にご講演いただきます。参加費は無料で、医療従事者の方々もご参加が可能ですので、ぜひお申し込みください。多くのご参加をお待ちしております。

お申し込みはこちら

※ 会場の都合により先着 100 名まで。
定員に達し次第、締切とさせていただきます。



第53回がんについてもっと知ろう!市民講座



研修開催情報

令和5年度 姫路赤十字病院 看護部研修開催予定一覧

※日程は変更する可能性がありますので担当者までお問合せください
※新型コロナウイルス感染拡大の影響から研修会を中止する場合があります
※参加の際はマスク着用・体調管理シートの記載をお願いしています
※e-ラーニング導入により、記載している研修が一部受講できない可能性があります

▶レベルI研修

実施予定日時	研修名	テーマ・主な内容	講師	対象者
2/22 13:30~14:30	看護倫理I	看護師にとっての看護倫理	看護係長	レベルI
3/7 13:30~14:30	心に残った看護場面	心に残った看護場面をナラティブに語る	看護係長	レベルI

▶レベルII研修

実施予定日時	研修名	テーマ・主な内容	講師	対象者
2/7 13:30~14:30	グローバルヘルスII	国内外の保健、医療、看護、福祉の動向	看護係長	レベルII

▶レベルIII研修

実施予定日時	研修名	テーマ・主な内容	講師	対象者
1/25 13:30~14:30	キャリア開発支援III	キャリアアーカーの定義、タイプ キャリア発達・キャリア心理学 戦力的にキャリアを考える	看護副部長	レベルIII
3/15 13:30~14:30	グローバルヘルスIII	国外の歴史、宗教、政治、社会、言語、慣習、 ジェンダーについて グローバル化に伴う地域の健康問題について	看護係長	レベルIII

▶看護補助者研修

実施予定日時	研修名	テーマ・主な内容	講師	対象者
2/16 13:30~14:30	守秘義務・個人情報と倫理	看護補助者として基本的姿勢と態度 医療チームの一員として倫理	看護副部長	看護補助者

▶専門・認定看護師研修

実施予定日時	研修名	テーマ・主な内容	講師	対象者
6~3月	がん看護研修 Step3	1) 6月:がん医療における看護師の役割 2) 7月:がん患者の自殺 3) 8月:がん薬物療法に使用する薬剤 4) 9月:がん薬物療法の副作用の 症状マネジメント 5) 10月:オンコロジーエマージェンシー 6) 11月:がん医療における家族看護 7) 12月:がん患者とのコミュニケーション NURSE演習 8) 1月:がんゲノム医療と遺伝性腫瘍 9) 2月:医療者のストレスマネジメント 10) 3月:事例検討	がん看護専門看護師 緩和ケア認定看護師	医療に従事し、がん患者の 対応を実践している方
11月~1月	アセスメント力を身につける	症状から状態をアセスメント 臨床と照らし合わせた内容 「もしものとき」の対応を考える	集中ケア認定看護師	キャリア開発ラダー レベルII~IIIを目指すもの

研修に参加希望の方は、QRコードかURLより参加申込フォーム
に必要事項を入力しお申し込みください。

<https://forms.office.com/r/VtteS3H5VP>

研修予定日の2週間前までにお申し込みください。

(直前のお申し込みは、電話でご確認ください)



〒670-8540 姫路市下手野1-12-1 姫路赤十字病院 看護部
TEL: 079-294-2251 (内線: 3001, 3417)

※お問い合わせは月~金の8:30~17:00までをお願いします。

